

報 道 資 料

平成 19 年 4 月 12 日

NPO法人電子自治体アドバイザークラブ

事務局長 多田 TEL:0742-33-7863

総務部知事公室広報広聴課

広聴・県民参加係 林 (内線2136)

「なら県民電子会議室」新年度のスタートについて

～ 県政について県民同士で意見交換 ～

昨年 11 月に開設した「なら県民電子会議室」の平成 18 年度の実施結果を取りまとめました。

また、今年度は新テーマのもと、運営を4月13日(金)から開始します。

当電子会議室は、ネットワーク社会が進展する時代の背景に合った、新たな県民の意見交換の場として注目されています。

奈良県を良くしたい、自分の住んでいる地域を良くしたいと思っている人たちに集まっていただき盛り上がりのある電子会議室にいたします。

1. 平成19年度の取組

今年度は、運営委員会のメンバーに関係分野の有識者に参加いただくとともに、コーディネーターに経験豊かな方をお願いして、次の3つの新しいテーマにより実施します。

(1)新テーマ

自分たちでできるまちづくり

～ 地域住民主体による魅力あるまちづくりの提案～

みんなで教育について語ろう

～ 子どもたちの学び舎、学校づくりを地域ぐるみで考えよう～

奈良県の観光戦略について考えよう

(2)実施期間

平成 19 年 4 月 13 日～9 月 30 日 6 ヶ月間

2. 平成18年度の実施結果

(1)実施テーマ

奈良の魅力の大発見

私は奈良県のこれをPRしたい！～奈良の売り、奈良の魅力を情報発信！～

みんなで取り組む防災対策

～自分たちでできる防災対策について話し合う～

(2)実施期間

平成18年11月1日～19年3月31日 5ヶ月間

(3)電子会議室へのアクセス・投稿状況等

トップページへのアクセス数:11,058件、登録者数:65名、投稿件数:185件(月平均 37件)

(4)テーマ別の取りまとめ概要

別紙のとおり。

3. 運営団体 NPO法人電子自治体アドバイザークラブ

ホームページアドレス www.kenminconf.pref.nara.jp/

平成18年度 テーマ別の取りまとめ概要

1. テーマ1:「奈良の魅力の大発見」

【議論された主な内容9項目】

正倉院展のありかた 奈良文房三宝展 平城の魅力は? 奈良をPR
国際交流 平城宮跡事業(平城遷都1300年記念事業) 奈良にいてできる海外
文化交流 奈良の歴史と現代の融合について 平城宮跡の発掘

【議論の概要】

観光産業に尽力し、伝統を守り、ボランティアや国際・広域交流をやっている沢山の人々のお陰で、奈良の観光が維持発展、更に奈良を訪れた人に、もう一度来たいと思っていただいているのは素晴らしいことだと再認識しました。豊かな資源に安住することなく、日本中いや世界中の人々とこの資源を子孫にわたって共有する新しいことに挑戦しているか、あわせて、奈良県の産業・経済・教育・文化・社会全般について活性化されているかが問われている。この課題を克服していくことが新たな魅力アップに繋がっていくのだと思う。

また、県民のもっと多くの方が観光大使になりきって、“自信をもってPR”できているか、観光客数は奈良の魅力の尺度ではなく、“自信をもってPR”出来たかの尺度だと考えると、残念ながらPR力がまだまだ弱いと思った。

奈良の魅力や、魅力アップについて新しい取り組み提案や仕組み作りについての、貴重なご意見、ご提案を広範囲にいただいた。これらが『21世紀観光戦略』の今後の各施策の具体化を図る段階で是非とも生かされることを望みたい。

2. テーマ2:「みんなで取り組む防災対策」

【提案】

テーマからは、「行政の取り組みはともかく、住民の目線で防災対策を話し合っほしい」との意図が感じられる。そうだとすると、防災については行政を抜きには語ることができず、せめて防災について行政は何ができ、地域、個人には何を期待するのかを明らかにしてから電子会議室での会議を開始する必要がある。

特定の人(例えば地区防災に関係している人)の関心は高い。また、行政職員のこの分野の人の意識も相当高い。しかし、これらが有機的に結合するまでには至っていない。

一つの方策として、今後これらの地域の防災への取組を連携させ、シナジー効果を発揮できるようにインターネットを活用するのが良いと思われる。

即ち、インターネットの防災ネットをいきなり住民レベルまで拡大せず、自治会などの地域の中間段階のネットをまず構築し、その後住民レベルまで拡大するのが良いと思われる。

【議論の概要】

投稿内容については、投稿タイトル(大項目)は、24項目に亘って議論された。「防災対策」というテーマそのものが非常に大きく、したがって投稿も多岐にわたっている。しかし、それぞれの項目について深く議論するには至っていない。もう少し議論する期間が必要ではないかと思われる。

項目数の多い投稿は、災害時の安全確認用掲示板や奈良の災害についてであった。自治体によっては、既に、プロブを立ち上げて活動しているところもあった。奈良には、私たちが震え上がる災害は非常に少ないと思う。これが、県民の本音ではないだろうか。しかし、奈良県は決して災害の少ない地域ではない。4年程前に、奈良県を南北に縦走した台風があった。

いくつかの自治体で、インターネット上に防災のサイトを立ち上げ積極的な取組をしている紹介があった。eコミュニティのインフラ作りのグランドデザインが必要になる。奈良県の防災社会への進展を促進することを目的として、県内の自治会、消防団のIT化促進が必要であり、応用研究のための枠組を作る。県民に新しいITの恩恵をもたらすことを意図した幅広いスケールのプロジェクトとして、e-コミュニティ(IT商店街、IT町内会等)の将来像が必要になる。